

2025 年 12 月 10 日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
2025 年度第 3 回 ALPS セミナー
「日本の大学におけるアカデミック・アドバイジングの導入に向けた課題と展望
—『知の総和』答申を受けて—」
参加者アンケート（Zoom によるウェビナー）

当日参加者数： 135 名 アンケート提出数： 64 件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーの満足度はどの程度ですか。

- | | | | | | |
|----------|------|---------|------|----------------|-----|
| ・満足した | 34 名 | ・まあ満足した | 23 名 | ・どちらとも言えない | 3 名 |
| ・やや不満である | 1 名 | ・不満である | 0 名 | ・評価できない（途中退席等） | 3 名 |

2. 1. でそのように回答した理由をお書きください。

満足した

- ・ 米国で実際に勤務していた人が日本の大学当事者としての話であり具体性があった。
- ・ 定義や仕組みがわかりやすく、概念の切り分けができた。
- ・ アメリカの事例を知ること、それを基準として自校で実践できる部分、できない部分を検討することができたため。
- ・ 自分が思っている以上に学生に対して大切だと感じました。
- ・ 他国（米国）の事例を踏まえた紹介・説明であったため。
- ・ 今年度後期より制度の運用をはじめ、次年度より本格運用する予定であり、手探りであったところ、このような機会をいただいたため。
- ・ これからアカデミック・アドバイジングを始めていくにあたって、ちょうどよいセミナーであったため。
- ・ 教学マネジメント、IR との関わりがよく理解できました。
- ・ アカデミック・アドバイジングについて、教学マネジメント指針との関係を示して頂いたことは非常に有益でした。
- ・ とても分かりやすく解説いただけたから。
- ・ アメリカの事例とこれからの日本の大学が目指すところがわかったから。
- ・ 私立大学で修学支援を担当しております。本学は、学生の履修等については、教員任せです。全てを一人の教員に任せてよいものが悩んでいました。その回答が分かったような気がします。
- ・ 日本でアカデミック・アドバイジングが必要とされる状況を理解することができた。
- ・ 今週末に 3 大学の有志でアカデミック・アドバイジングの意見交換会があり、ベースとなる知識が不足していたため、勉強させていただきたいと思い、参加させていただきました。概念の整理ができました。
- ・ アカデミック・アドバイジング体制を検討するにあたり、公開情報を活用することは有益だと思いました。またアセスメントの大切さも本日実感いたしました。
- ・ 専門家からの要点整理された詳細説明を拝聴し、大変勉強になりました。
- ・ アメリカの大学で学生のサポートをする立場の方のことができたから。
- ・ アカデミック・アドバイジングがどういったもので、なぜ必要かについてよく理解できたため。
- ・ アカデミック・アドバイジングがどのようなものなのか、また、どのような役割をするのかを実際の例も

含めて知ることができた。

- ・ 履修指導だけでなく、本来のアカデミック・アドバイザーに期待される役割について、海外の事例を含めて知ることができました。
- ・ アカデミック・アドバイジングについての考え方を学ぶことができたから。
- ・ 最後の質疑応答で、山崎先生が海外で得た知見を国内の大学でどのように展開されていたのかを知ることができ、また、学生にどこまで介入するかなどの具体的な方法も教えていただけて勉強になりました。

まあ満足した

- ・ Academic Advising の重要性ならびに Academic Advising は教育の一環であり、特定の部署等のみで検討するものではなく、大学全体として運営していくものであることが再認識できた。
- ・ アカデミック・アドバイジングに関して、気になっていた点のお話があったため。
- ・ 米国でのご経験も踏まえ、現在の日本におけるアドバイジングの導入に向けたポイントをお話しいただいた。
- ・ 学生をサポートする体制について考えるきっかけとなった。
- ・ 目にする機会があったアカデミック・アドバイジングというフレーズについて、イメージを持つことができた。
- ・ NACADA や米国の大学での実務経験に根ざしたお話をきけたため。
- ・ アカデミック・アドバイジングの他学の在り方を学ばせていただきました。
- ・ 概要を理解することができました。
- ・ アカデミック・アドバイジングの概念について知ることができた。(同様のもの1件)
- ・ アカデミックアドバイスについて、初めて学ばせていただいたので、まだ深掘りできていない感じですが、このような専門職の育成や活躍の場について、自分なりに創造してみたいと思います。
- ・ 山崎先生のお話で、アカデミック・アドバイジングの重要性や必要性の理解は一層深まったが、いざ顧みてみると、日本では(というより本学では)導入障壁が高そうだと感じたため。
- ・ セミナーの中でアドバイジングの実演(動画?)のようなものと共通の理解がしやすかったかもしれません。
- ・ よくわからないことがあったことが理由です。4. に書きます。セミナー自体は大変ありがたく、良い機会になりました。開催いただき、ありがとうございました。

どちらとも言えない

- ・ よくわからなかった。

評価できない(途中退席等)

- ・ 急遽打合せのため、終盤からの参加となり申し訳ございませんでした。
- ・ 用務により途中退席しました。申し訳ありません。

3. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・ アカデミック・アドバイジングの運用
- ・ チュータリング、学生ピアサポート、医療でのメンタルケアの区分け。

- ・ IRの観点もアカデミック・アドバイジングに入ることは新発見でした。
- ・ 単なる時間割を組み立てるだけでなく DP に沿った指導が必要だということ、また、そのためには単位取得状況を DP ごとにまとめるなどの対応が必要かと感じた。
- ・ アカデミック・アドバイジングという言葉に対して持っていた印象が大きく変わりました。
- ・ アカデミック・アドバイジングについての形態や定義が理解できた。
- ・ 履修支援と学修支援がセットであること。
- ・ アカデミック・アドバイジングが数字だけでは把握できない質的情報が得られることをあらためて認識することが出来ました。
- ・ 特に高大接続の場面で、アカデミック・アドバイジングの活躍する場を教えてくださいました。
- ・ 日本の履修指導は点のサポートであることにに対し、海外のアカデミック・アドバイジングは、線のサポートであることが分かった。
- ・ 学生と真剣に向き合うことの大切さ。
- ・ 専門職としての基盤となる学問領域について考えさせられました。
- ・ 『知の総和』 答申の内容についてがわかった。
- ・ 上記のようなことを専門的に扱う部署があったこと及び必要であることが分かりました。
- ・ アメリカにおけるアカデミック・アドバイジングの経緯なども学びながら、単なる履修支援と異なる専門性や、コーディネート力が必要となることを理解できた。知の総和答申についての理解(大学職員としての準備)する上で参考となりました。海外におけるアカデミック・アドバイジングの歴史や理念、支援のあり方を、ご経験とともに学ぶことができました。
- ・ 個人だけでなく集団に対するアプローチのお話を聞けて勉強になりました。また、チューターなど、役割が重なりそうな支援者の違いを意識する必要性も学ぶことができた。
- ・ AA の定義について改めて解説を確認することができました。日本の大学では「正しい理解」を普及させるにはどのようなやり方が考えられるか、を考えました。組織的に AA を専門部署として確立し、そこに複数の教職員を配置した上で、教学マネジメントともつなげる(関連部署とする)「仕組みづくり」が重要ではと考えています。
- ・ アメリカでは1つの仕事やポジションが、何をどこまでするのか明確で、それはつまり、組織において何のためにその仕事やポジションがあるのか、自分は何をどこまでしなければならないのかということが、働く当事者にとってもクリアでつながっているのだらうと思いました。気持ちだけではサポートできないということと、1つの部署だけで埋没してしまわない、学生本位の大学全体でのサポートという考えを学びました。
- ・ アカデミック・アドバイジングで、学生への支援、アセスメントで、学生が自らを俯瞰し、情報を求め、選択をしながらマネジメントできる力が必要であること、能力の育成につながると理解した。
- ・ アカデミック・アドバイジングが、学生のサポートをするだけでなく、大学の教育の質保証を担う役割も持っている点。
- ・ IR や公開情報などの量的なデータと、アカデミック・アドバイジングによる質的データと組み合わせることで、より良い学修支援に繋がることがわかりました。
- ・ チューターとアドバイザーの役割分担、離れている職種との連携の重要性
- ・ アカデミック・アドバイジングの役割について。
- ・ 『知の総和』 答申からは、これまでの知識重視型から、展開・応用力を持った知恵重視型への転換を感じ取ったが、そのためのカリキュラムの伏線化や社会で活躍できる基盤(レールと言っても良い)の整備が

重要と認識していた。今回のお話で、その前段階の入学前や入学後の学習支援による底上げや支援の必要性を理解した。また、今まではやや形骸化していたようにも見えるディプロマ・ポリシーへの回帰こそが、各大学の存在価値を決めるのだと再認識した。

- ・ 海外でのアカデミック・アドバイジングの様子について教えていただけて勉強になりました。特にメトロポリタン州立大学の単位認定についてのご講義が興味深かったです。
- ・ ピアアドバイザーとの線引きの必要性。
- ・ チュータリングとアカデミック・アドバイジングが違うものであり、自身がこれまでやってきたことはチュータリングに分類されるということが分かりました。
- ・ 大学図書館の職員なので、図書館の学修支援にどのようにつなげていけるのか、教員との連携を視野に検討できたらと考えています。
- ・ 特にありません。

4. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・ 日本におけるか CAP 運用の課題。
- ・ 国内のアカデミック・アドバイジングの違い（大学ごとの実践の違い）
- ・ 学んでいる最中であり、現在のところないです。
- ・ やはり、マンパワー不足は課題です。専任教員が在籍していることが理想ですが、小規模大学ではそれも難しく、職員や大学院生等の力を借りて行うため、牽引する力、体制の構築に限度があると考えております。
- ・ 今回、日本の大学の文脈での「アカデミック・アドバイジング」導入に向けた課題と展望ということであったが、米国の制度や理念の視点から課題と展望を提出されているだけで、導入に向けた具体性（提言）が示されていなかった。「知の総和」答申や私立大学等改革総合支援事業で、「アカデミック・アドバイジング」の導入等が示されており、各大学での導入に向けた課題検討をされていると推察する。各大学では、既存の制度のなかで、どのように実質化するかを検討していると思われるが、今回のセミナーでは、単に制度・理念の移植の観点からの課題で、実質化するための日本の大学での課題や展望が示されておらず、講師ご自身の制度導入に向けた課題や展望（実務的）が聞けなかったのは残念だった。
- ・ 『知の総和』答申を事前に確認しておらず、答申の要求レベルとの差異がどの程度なのか理解できなかった。
- ・ 学生の数に対して丁寧なアドバイジングをするには時間的に難しいような気がする。部局横断するとの発言もあったが、アドバイザーによって視点がブレそうでは？
- ・ 実践的なことはまた、別途勉強が必要だと感じました。
- ・ 大学で学ぶために（学生が能力やスキルを身につけるため）必要な、履修選択やマッチング、修正や学修、卒業に向かう姿勢やその先などは、そもそも自分で行うもので、試行錯誤しながらもその中で自己の力をつけてきたと思っています。この認識が誤っているかもしれませんが、アカデミック・アドバイジングが必要となった背景や経緯などが疑問です。
- ・ 事務部門とアカデミック・アドバイザーとの連携体制について、好事例や障壁となる点等についてお伺いしたかったです。
- ・ 考え方かと思いますが、学生一人に対してチューター・アドバイザー・指導教員・ピアサポートと多くの役割をもった学生支援が必要になるのか、必要とされているのか実感が少ないというのが現状です。
- ・ よく分かったことで、不安や焦りは大きくなった。

- ・ アカデミック・アドバイジングの中身について、具体イメージがあまり得られませんでした。学生からどのような相談が多いのか、どのようにアドバイスすることが多いのかなど、差し支えない範囲で具体事例が示されると、もっと理解が深まったのかなと思いました。かなり教学データを見ながら助言されている印象でしたので、どのようなデータを参照し、どのような分析をされているかも少し踏み込んで知りたかったなと思いました。(Q&Aに書くところまで至らずすみません)
- ・ 米国以外のアカデミック・アドバイジングの参考例があれば知りたいと思いました。
- ・ 特にありません。(同様のもの5件)

5. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・ 個々の能力に合わせた CAP の運用
- ・ 学生の主体性をサポートする印象（あくまでも学生主体でやり過ぎない）
- ・ アカデミック・アドバイジングは行っていないですが、話題にも出ました、上級生が下級生を教える「屋根瓦方式」は行っています。
- ・ まずは大学内のカリキュラムと資源を知っていることが必要だと思う。その点からいえば、職歴が長かったり、キャッチアップする能力が高い人の方が資質があるといえる。そのうえで、他大学や教育関連法規をはじめとする知識を広げ、自大学と比較し批判的に検証できる能力が必要だと思う。
- ・ 全般として、教職員に学生支援マインドがないと、その役割は担えないと強く思っています。また、DP/CP や各科目の到達目標等が重要である中、大学の理念に流されがちな状況が本学にはあり、基本的な教育課程の考え方を知っていることもマストであると思います。また、教育課程外の学びと DP (DP の要素) との紐づけ（設計されたものはもちろん、まったく外部の活動と DP の結びつき）という発想もあるとよりよいと思います。
- ・ 所属大学では、担任制を採用しており、学修支援についても「形式的」になっています。
- ・ 履修登録については、当該学科・コースの専門性が求められるのかと思いました。詰まるところ OBOG がアドバイザーになってもらえればと思いました。
- ・ 大学が目指す人材育成目標を達成するために、常に向上心を持って教育や学生支援の内容について様々なデータをもとに検証し、課題となる点を見つけたし、改善を図っていくことが大切であろうと思う。
- ・ やはり、ディプロマ・ポリシーの理解と、これを実現するために何を支援できるかを十分に理解することが重要で、できれば専任の教職員スタッフが対応できれば良いと思います。
- ・ 教員と事務局との連携が課題であると考えています。また、本学図書館では博士課程の大学院生によるラーニングアドバイザー（主にライティング支援）制度がありますが、相談件数が減っています。今後、どのような観点でサービスを展開していくかも検討課題です。
- ・ 障がい学生支援、合理的配慮に関わる専門職として、修学支援・学生支援にあたっています。自身の業務をより広い見地から位置づけて理解し、大学の学び全体の向上のために努力していきたいと思っています。取組事例等については、学内外の研修の機会等を通じて学んでいきたいと思っています。
- ・ 特にございません。(同様のもの2件)

6. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・ 有意義
- ・ 貴重なコメントを頂き、感謝申し上げます。

- ・大変、勉強になりました。ありがとうございました。(同様のもの5件)
- ・山崎先生が保健センターに行かなさそうな学生についていく話を聞いて、とても驚きました。メンタルヘルスは扱わないとは述べていたものの、学生へのベストサポーターを実感しました。(一番最後にメンタルヘルスの質問をした者です。自分だったら、連れていく～まで対応できていなかったと思います…。ありがとうございました。)
- ・新しい動向について話を聞く機会となりました。貴重な講演をありがとうございました。
- ・いつも参加させていただいていますが、自分の不勉強さを知るとともに、よき学びの機会になっております。これからもよき学びの機会として、参加させていただきたいと思っています。
- ・取り敢えず学生確保のために、入学希望者にすべて合格させる体制になっています。その対策がなされていない場合、どこから取り組めばよいのでしょうか？ まずは、仲間作りからかなと考えています。
- ・本日のご講演を聞くと聞かないとでは、大学教職員の学生支援の考え方に違いが出てしまうくらい、とてもよい企画であったと思います。ありがとうございました。
- ・難しいかも知れませんが、資料を事前配布いただけますと予習等が可能でより理解を深められるように思います。
- ・レジリエンスを高め、個々人が自立した生き方ができるために、失敗から学び・活かすなどが必要だと感じています。初等中等教育では、すべての生徒がうまくいくよう、仕組まれた授業が多く展開されていると認識しています。成功体験から理解する、自己肯定感を高める、意欲を増すなどこれも欠かせないことですが、そういった中に疑問、心配を抱えています。本日の内容と離れた意見となり申し訳ありませんが、セミナーに参加する中で頭に浮かんだことを記入させていただきました。
- ・自分の仕事が大学事業であっても行政的な事業経験しかないので、違う環境の常識をご教示いただける機会はありがたく感じております。
- ・今までの取組は、あくまで各組織内でできることとしてのものであり、それでも学部や大学院研究科の複数教員による指導体制は、これまでよりは一步進んだものと理解していたが、山崎先生のおっしゃるとおり、教員の力には限界があり、相当の負担を強いている。やり甲斐搾取のような状態で、学生のために尽力すればするほど、疲弊する姿をやるせない気持ちで見てきた。組織や機関として立ち上げて、大学としての覚悟を見せることが重要だと思った。山崎先生をはじめとした千葉大学アカデミック・リンク・センター事務局のみなさま、本日はありがとうございました。
- ・「知の総和答申」について、特に「規模の適正化」の部分で、どう対策していけばいいのか、地方の小規模大学における「質の向上」とは、といった内容でご講話いただけるとありがたいです。

7. ご所属について、該当するものを選んでください。

- ・千葉大学に所属 7名
- ・千葉大学以外に所属 57名

8. 身分について、該当するものを選んでください。

- ・学生 1名
- ・客員教授 1名
- ・教員 17名
- ・大学職員(図書館職員を除く) 32名
- ・図書館職員 9名
- ・出版関係 0名
- ・その他 4名

9. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けします。「登録しない」を選択してください。)

- ・登録する 21名
- ・登録しない 43名